

住民主体で福祉のまちづくりを推進する情報交流紙です

よつ葉のクローバー KIKUSUI

No.68 2013.4.1

菊水福祉のまち推進センター運営委員会
札幌市白石区菊水6条4丁目3-10
電話 011-887-7006 FAX011-811-3831
URL <http://kikusui-net.jp>



福まち通信



白石区・地区福まち推進センター活動交換会

2月23日（土）午後1時半、白石区民センター3階区民ホールにおいて、札幌市白石区社会福祉

協議会・札幌市自立支援協議会白石区地域部会共催による「平成24年度白石区・地区福祉のまち推進センター活動交換会」が開催されました。出席者は、各地区の福まち運営委員の他に地区民児協、白石区内の障がい者サービス事業所、地域包括支援センター、介護予防センターの職員、および関係行政機関職員、一般市民等の約130名です。

研修会のテーマは、「地域で孤立する人をつくらないために～つなげよう心、広げよう支援の手」です。

(1)「地域で孤立する人をつくらないために～自殺やひきこもりを防ぐために～」講師は、社会福



社法人朔風の森本千尋常務理事・事務局長です。

(1)先日、東大の教授の研究メンバーが集計した孤立無業者数は、全国に162万人おります。その中でニートとは、「15歳から34歳までの通学もしていない人」や「就職活動をしていない人」で、全国に約60万人おります。ニートは、就職難から高齢化が進行し、家族と同居して引きこもりしている場合は、何とか生活ができます。ただし、家族がいなくなった場合は、無収入状態となり一気に生活が苦しくなる大きな課題を含んでいます。

(2)「よりそいホットライン」は、東日本大震災の被災者向けに東北3県で始まった電話相談ダイヤルで、24時間通話無料です。東日本大震災で被災にあった被災者で支援を受けられない人達が、この電話相談で被災者支援につながりました。この「よりそいホットライン」の利点は、単に相談を受けるだけでなく、福祉関係者、行政や色々な関係者がネットワークを通じて相談内容に応じた支援につなげることです。なお、ホットラインはtel.0120-279-338です。

現在の福祉行政の課題は、何事にも申請主義です。本人が、生活に困って悩んでいても、役所に出向いて申請しないと福祉制度の支援を受けられないのが問題です。この件で、思い出すのが白石区で起きた姉妹の孤立死です。姉妹の現実に応じた対応ができたのではないのでしょうか。

(2)活動発表



1) 講師は、NPO「法人きなはれ」白石障がい者就労支援センタースカイの常盤野晴子センター長です。事業内容は、精神障がい者や発達障がい者の職業訓練を行なっています。

地域相談カフェは、東札幌の姉妹の事件があり、この支援事業を始めました。地域の中には、見守り活動の手が届かない人達もおります。相談目的がなくても、気軽に話せる場所を作ろうと思い立ちました。相談は無料。相談者数は、去年の7月から今年の3月まで延べ718人です。年齢層の内訳は、40代、50代が中心です。相談内容は、転居して友達がいない、離婚問題、などです。傾聴ボランティアは、無理に話を聞き出さないことにしています。相談者は、問題の解決方法を探るわけではなく、話を聞いてもらって帰る方が多いです。相談者の皆さんは、繰り返し話すうちに話の整理ができて、自分で気づいて対処できる方もおります。また、相談者が必要と感じたら促す、相談窓口を教えることもあります。私たちは、地域の中で障がい者と住民の人達が暮らしやすいまちを作れるのかを考えていかないとならないと思います。

2) 講師は、NPO法人シーズネット「さっぽろ孤立死ゼロ推進センター」の杉谷憲昭事務局長です。

孤立死を防止する最大の課題は、各人が孤立した老後の暮らしを送らないことです。孤立死防止のもう一つの課題は、本人の自助努力、地域における人間関係づくりへの配慮、さらに何か問題の起きた場合の共助を中心とした仕組みづくりが必要です。

(1)「さっぽろ孤立死ゼロ安心ネットワーク事業」は、高齢者の増加により孤立死対策事業として始めました。孤立死とは、誰にも見とられないで亡くなる方です。孤立死の年間件数は、警察が未公表により不明です。一方NHKは、平成23年に調査した結果に基づいて、約32,000人と発表しています。

(2)「孤立死防止・地域連携ネットワーク事業」は、65歳以上の単身高齢者を対象とした孤立死対策の仕組み作りを考えて始めました。具体的には、孤立死対策に民間協力事業者と地域包括支援センターとの連携による地域ネットワークを作り、地域で孤立している人を探し出す事業です。現在、西区、豊平区、厚別区の3区をモデル地区として民間協力事業者（新聞販売店・牛乳販売店・灯油燃料店・乳酸飲料宅配等）の力を借りて見守り活動をしています。この事業は、直

ぐ結果に結びつきませんが、地域の人に「見守りの意識づけ」を広げようと活動しています。孤立死をなくすには、一声の挨拶により地域の支えができ、身近な人との輪を作っていくことが必要であると思います。

3) 白石区社協の福まち担当芳賀職員から「福祉のまち推進事業について」の説明がありました。

4) 講師は、東札幌地区福祉のまちセンターの熊谷節子事務局長です。

一人暮らしの高齢者の「安心見守り活動」の活動目的は、一人暮らしの高齢者が孤立しないように近所の住民が助け合って支える組織です。対象者は、80歳以上の一人暮らしの高齢者及び安心通報システム利用者です。



現在、福祉推進員は、96名です。見守り活動の必要な80歳以上の高齢者は、158名です。福祉推進員は、1名か2名の高齢者を月1回見守り活動しております。福祉推進員は、高齢者と話しする時間が十分に取れ、日常の困り事（布施金額、電池の交換、ゴミの分別等）を質問されるなど頼りにされています。高齢者の皆さんは、見守り活動されているという自意識が生きている価値や大事にされていることに、気づきこの地域で安心して暮らせる自信に繋がるのではないかと思います。

自立支援協議会白石区地域部会岡本直樹会長の挨拶の後、閉会しました。

菊水地区「安全・安心まちづくり活動」総決起大会



3月22日（金）15時30分から標記の総決起大会が開催されました。出席者は、連合町内会、交通安全実践会、交通安全母の会、各校PTA、警察署少年補導員の皆さん約80名が参加しました。

冒頭の大会開始宣言は、菊水地区まちづくりネットワーク会議の関口副会長が宣言し、主催者を代表して菊水地区まちづくりネットワーク会議の真鍋会長から挨拶がありました。

続いて、白石区瀬良市民部長から総決起大会を契機に皆さんが先頭に立って、皆さんの活動が地域に波及する中で、地域の目が貼り巡らされて地域の安心安全が保たれると思っています。皆さんの力を結集して防犯活動に一同でご尽力していただきたいとの祝辞がありました。

次に、白石警察署刑事生活安全課小川係長から菊水地区の現況の講話がありました。昨年の白石区全体の犯罪発生件数2,190件です。この件数は、一昨年と比較すると1割減少しています。この犯罪件数のうち、窃盗犯が8割程を占めています。特に、多いのが自転車盗難44件、車上狙い26件、空き巣（侵入盗）17件です。空き巣の場合は、家人と空き巣が出会うと凶悪な犯罪につながる場合があります。菊水地区の不審者の白石警察署への届出件数22件の内訳の主なものは、子どもに対する声掛け、女性に対する痴漢、下半身の露出等です。

昨年、高齢者の方が、昨年5月に菊水において道路横断中に交通事故死がありました。道路を横断する際は、横断歩道のある道路を横断してください。少年の非行防止には、綺麗なまちづくりが重要です。少年は、成長過程ですのでよく話を聞いて上げることも必要です。



各団体の代表者から活動内容の紹介がありました。

【連合町内会（夜間防犯パトロール）木村会長、連合町内会（青色回転灯パトロール）長谷川会長、交通安全実践会（交通指導員）高橋会長、交通安全母の会（連合町内会女性部）河上会長、各校PTA（スクールゾーン実行委員会役員）水林副会長、警察署少年補導員（非行・被害防止パトロール）横浜支部長】

源流太鼓披露—菊水の子ども達による力強い太鼓の演奏会がありました。



（大会宣言）菊水地区まちづくりネットワーク会議安全安心部折原部長から犯罪や事故のない安全・安心で快適に暮らすことのできるまち。その願いを実現するために各関連団体が連携のもと真剣に取り組んできました。私達区市民は、「菊水地区の安心・安全なまちづくり活動」総決起大会を機会によりいっそうの熱意を持って、次の事について表す事を宣言します。

1、私たちは、安心安全なまちづくりのために、自分たちのまちは

自分たちで守ると言う気概を持って、自主的に防犯活動や交通安全活動を行います。

1、私たちは、安心・安全なまちづくりのために地域の自主防犯団体や交通安全団体、そして関連団体との事業や活動を積極的に協力し犯罪防止や交通事故防止に努めます。



1、私たちは、安心安全なまち作りのためにまちづくりセンターや白石区と協力し地域総包みまちづくり活動を展開します。と大会宣言がありました。

最後に、菊水まちづくりセンター諏佐所長の挨拶の後、閉会となりました。

集録

雪解けも進み、やっと春の足音も少しずつ大きくなってきました。4月は、新入学や入社式等があり慌ただしい月になりますね。

今月号は、地区・福祉のまち推進センター活動交換会・菊水地区「安心・安全まちづくり活動」総決起大会の記事を中心に編集しました。

今回、白石区福まち活動交換会に参加し、地域の高齢者の見守り活動は、高齢者が安心して暮らせる重要なツールと思いました。

この見守り活動が、高齢者に信頼され頼りにされる存在になるよう期待したいです。

（品川）

ご寄付いただきました

マックスバリュ菊水店さん並びにマックスバリュ東札幌店さんから、「幸せの黄色いレシート運動」の成果としてのご寄付頂きました。

「幸せの黄色いレシート運動」とは、毎月11日をイオンデーとしてお客様に黄色いレシートをお渡し、お客様の自発的行為で回収ボックスへ投函していただいています。回収されたレシートの売上金額の1%を地域のために活用していただこうと今回のような贈呈を行なっています。

2月28日（木）、福まち大久保事務局長が「マックスバリュ菊水店」から洗剤等50,600円相当の商品並びに「マックスバリュ東札幌店」から食器用洗剤2,500円相当の商品を各々頂きました。大切に福まち活動に使用させていただきます。



菊水店の成田副店長から贈呈



東札幌店の北川副店長から贈呈